

# SANO MEDIA

あなたと新しい街をむすぶ情報誌

Vol.6  
Urban Renaissance Agency

誰にでも、今までの自分と、新しいキッカケが出会う瞬間があります。それは、自分を成長させられる、自分を新しく表現できるクロスロード(交差点)。このメディアが、この新都市が、そういうクロスロードな瞬間を、皆様に少しでも提供できればと考えています。

●発行所 都市再生機構 佐野都市開発事務所  
〒327-0821 栃木県佐野市高萩町54-1 TEL.0283(21)3156

ジャズドラマー

## 小山太郎

生まれてから高校卒業までを佐野で過ごした早熟のジャズドラマー。東京、ニューヨークと舞台を移し、今再び、円熟のテクニックと共に、佐野に凱旋する小山太郎氏に、音楽、人生、そして佐野を語ってもらう。

街道をのんびりゆく  
[寄り道篇]

前回ご紹介して好評をいただいた田沼・葛生の第2弾レポート。地元の方も見過ごす?、穴場、遊び場、いち押しスポットをご紹介します。

## イオンSC徹底解剖 vol.3

クリスマス、お正月、成人式と、年末年始はたくさんの贈り物がゆきかう季節。そこで、今回は特にクリスマスをテーマに、イオンがおすすめするスペシャルなアイテムをほんの一部をご紹介します。誰もがみんな、サンタクロース、です。

佐野、東京、ニューヨーク、これから出会う街。  
世界中どこにいても、僕の音を鳴らしたい。

目覚めるとジャズが流れていた

小山太郎氏のデビューは早い。高校卒業と同時に生まれ育った佐野から上京、日本を代表するジャズベーシスト、河上修氏のユニットで全国ツアーを開始。翌年にはアルバムデビューを果たした。これは日本のジャズ界においては異例のスピード出世といえるが、それには彼の早熟な才能もさることながら、オーディオマニアであり無類のジャズ愛好家であった父親の影響も大きかった。

「朝、目が覚めると、部屋にはいつも大音量でジャズが流れていました。夜は夜で、やれライブだ、録音会だ、ジャムセッションだつて、楽器を抱えた大人たちが毎晩のように家へ入り込んでいたんです」。

呼吸するのと同じ自然さで、生まれた時からジャズは彼の中で鳴り響いていた。

彼自身、ドラムを始めたのは小学校5年の時。「今は想像もつかないですが、小学生の頃は体が弱くて、いじめられっ子だったんですよ。子ども心にも『この先どうなっちゃうんだろう』みたいな不安があつて。それを心配した担任の先生が、『何か好きなこと、打ち込めることをやらせてみては』と親父に

薦めたんです」。

好きなこと。太郎少年は、ライブへ行けば、どの楽器よりもドラムに一番の興味を示した。こうして太郎少年は、小さな手のひらに父から与えられたスティックを握りしめ、彼の人生を始めることになる。リズムはセンスと言われるが、彼には天性の才があつたのだろう。情熱もあつた。

「ドラムを叩くのが楽しくて、楽しくて、ただもう無心に叩いてたつて感じ」。

そして、当時から日本ジャズ界のリーダーとして知られ、少年の憧れでもあつた猪俣猛氏と出会い、幸運にも弟子入りを果たす。氏も「目置く才能を秘めた少年は、教えを受ける中ですますますリズムの虜となり、気が付けば、いじめは消え、漠然とした不安からも解放された。やがて大人たちと混ざって演奏するようになり、高校生になると講師として教えるほどの腕前になる」。

「当時は羽振りが良くて、ライブと講師のギャラで全学費を支払うくらい稼いでいました(笑)」。早熟のドラマー、小山太郎の名は東京のジャズ界へも風のように渡つていった。そして高校卒業と同時に、ジャズ・ドラマーとして世界の頂

SPECIAL INTERVIEW

# 小山太郎

現在ジャズ・ドラマーとして活躍する小山太郎氏。佐野に生まれ育ち、東京、ニューヨークと活動の舞台を移した後、今再び故郷佐野に戻ってくる。やっと見つけた自分の音楽を手土産にして。彼のこれまでの軌跡と、再会した街、佐野についてお話をうかがった。

点を目指し、上京。東京には「上京する時は必ず連絡してくれ」と、小山氏の本格デビューを待ち望む河上修氏がいた。

相手の要求に応えられなければ仕事を失う。彼は自分を捨て、死に物狂いで要求に応えようとした。「当時はドラムが全て。ドラムが叩けなくなったら死ぬしかないって言うくらい、喰らいつくしかありません」。

小山氏のドラムは、「正確で緻密、完成度が高い」と評されることが多い。後に世界トップレベルのジャズ・プレイヤーからも重宝がられることになる。その揺るぎないテクニックは、東京時代に培われたものだ。

それは結果的に、もともと高度な彼の技術で、プロとして流のレベルにまで高めることになった。やがて小山氏は、世界にその名を轟かすジャズサクソフ奏者、渡辺貞夫氏を始め、佐野時代から憧れていた日本有数のジャズ・ドラマー、日野元彦氏など大御所にも認められ、彼らのグループに仲間入りするようになる。

## JAZZ DRUMMER TARO KOYAMA

「河上ユニット時代は、佐野時代と180度違いました。しごかれ過ぎて円形脱毛症ができたくらい(笑)。ちよつとイントロを叩いただけで河上さんに『遅いなだよ』と怒鳴られ、ビッチを上げると今度は『何をセカセカしてるんだよ』とまた怒鳴られる。しまいにはシンバルを手で押さえられて『もういい』でも、どんなに否定されてもドラムを止めようとは思いませんでした。それより、この人は体自分にどんな音を求めているんだろう、どうしたらその音が出るんだろうと、そのことだけを寝ても覚めても考えました」。

「流のジャズプレイヤーは世界最高の音を知っているだけに、メンバーにも決して容赦しません。しかも彼らは、このドラムにはうるさいときている。自分の音を生かすも殺すも、すべてはドラムの腕にかかっているからです。だから彼らは当然のように、あの天才ドラマー、エルビン・ジョーンズやトニー・ウィリアムス並の音を求めてきました」。

シビアな世界だったが、プレッシャーよりも高揚の方が大きかった。世界流プレイヤーとの共演、それ





想う人、考える人、行う人  
を創ることが本学の目標です。

# sanotan

## 佐野短期大学



### 学科・専攻(入学定員)

- 英米語学科 (40名)
- 経営情報科 (50名)
- 社会福祉学科
- 社会福祉専攻 (30名)
- 介護福祉専攻 (80名)
- 児童福祉専攻 (100名)
- 栄養福祉専攻 (80名)



### 入試日程

	出願期間	試験日	合格発表
推薦Ⅲ期	12/9(木)~12/17(金)	12/22(水)	12/24(金)
一般Ⅰ期	1/12(水)~1/26(水)	1/29(土)	2/1(火)
一般Ⅱ期	2/15(火)~3/1(火)	3/4(金)	3/7(月)

### 募集人員

推薦入試、定員70%を募集、一般入試、定員の15%を募集

### 試験方法

- 推薦Ⅲ期 a.小論文試験 b.面接試験 c.書類審査
- 一般Ⅰ期・Ⅱ期 a.英語Ⅰ b.国語Ⅰ(古文・漢文を除く) ※a, bから1科目を選択 c.面接試験

### 就学支援奨学金制度

一般Ⅰ期合格者の約半数の者に、選考の上、  
入学金の全額(25万円)または半額を免除します。

### 資格取得の充実

英語中学校教諭2種免許、ビジネス実務士、情報処理士  
社会福祉士受験資格、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭2種免許、栄養士、  
管理栄養士受験資格、フードスペシャリスト、栄養教諭免許(申請中)、  
訪問介護員2級、社会福祉主事任用資格、レクリエーションインストラクター



# 佐野短期大学

〒327-0821 佐野市高萩町973 <http://www.sano-c.ac.jp>

### 問い合わせ先

佐野短期大学 入試広報室  
0283-21-2332(入試直通)

資料をご希望の方は、下記のアドレス(右記QRコード)にメールを送信してください。

[nyushi@sano-c.ac.jp](mailto:nyushi@sano-c.ac.jp)

題名/資料請求SM  
本文/氏名、住所



docomo

au, vodafone

は世界のトップシンを体感することそのものだったからである。渡辺氏から「もつと、どつしりとしたビートをくれよ」とそんな言葉を飛ばされること自体が喜びであり、何としても望まれる音を出してやろうという練習に打ち込んだ。その一方で仕事は依頼がますます増えて、毎日急ピッチで過ぎていくようになる。次第に、彼の中で何かが始まり始めた。「演奏する場には事欠かず、経済的にも恵まれた状況でした。でも次から次へと演奏を『なす』日々、息切れがしたんです。頭にあるのは常に、マスターしなければならぬ、新しい譜面、そして相違わず、どうしたら相手に受け入れられるのか、喜んでもらえるのかということ。自分の音とか、自分のやりたい音楽とか、わからなくなりました」。

このままでは波にのまれ、自分の目指す方向を見失ってしまう。

成功の真つ只中にありながら、小山氏は日本での演奏活動にいったん区切りをつけることを決意。そして「自分の音を見つめ直すために、かねてから行きたいと考えていたジャズの本場、ニューヨークへと発つた。1999年のことである。

### すべては自由を得るため

「ただのリズムの羅列ではなく、ドラムを音楽として心地良く響かせるには、イチにも二にもテクニク。そしてテクニクを伸ばすには、当たり前のようにですが、確固たる基礎が必要なんです」。

また、こうも語った。「ジャズの醍醐味といえる、インプロビゼーション(即興)に代表される表現の自由と豊富なバリエーションにあります。でもそれは、高度なテクニクがあればこそ。せつかくジャズというステージに立つても、テクニクがなければその自由を謳歌することはできないんです」。

しかし、いざライブとなれば、スティックを持つ手の角度もペダルの踏み方も、基礎から離れて自由にやらせません。基本は崩すためにあると思ってるんです」。

普段の練習は、小学生の時から変わらず基礎練習のみ。何の曲をやるにしても黙々と基礎を積み上げることに専念し、そして本番で、それまで積み上げたものを、一気に根こそぎ崩すのだ。「崩すこと、それはひたすらに練習して、努力すればした分だけ自由になれるんです。僕はそこを、身をもって実感しています」。

神業のごとくスティックを自在に操る彼の手。初めてスティックを握った少年の日から、たゆまず技を叩き込み続けてきたその手が、言葉よりも何よりも、真実を語っていた。

### これから出会う街

Light & Shade  
JAZZ TRIO  
小山太郎トリオ  
フィーチャリング 田中裕士  
定価・¥2800

小山太郎(drums)  
田中裕士(piano)  
井上陽介(bass)

WOODY CREEK  
CD-1003

Home Sweet Home  
TRIO J-YORKERS  
定価・¥2800

J-yorkers  
野瀬栄進(Piano)  
井上陽介(Bass)  
小山太郎(Drums)

M&I/ボニーキャニオン  
MYCJ30243

瞬時に無数の音と音が、ぶつかり合い、反応して新しい音が生まれ、その音がさらに新しい音をよびこみながら目まぐるしく展開していく。ジャズは、本質的には都会の音楽だ。スピーディーに流れる時間の中、無機質なコンクリートに反響してこそ、光る音。「でも今は、場所は関係ない。思いますがね。環境にのまれるのでなく、自分が環境を変えてやれ、と」。

ニューヨークに行つて最大の収穫は、そこでジャズを演奏したことよりも、たくさんの人種と出会い、彼らの文化をシャワーのように浴びたことだ。

「たとえば練習用に借りていたスタジオでは、あつた、さらに隣ではクラシックが鳴り響いている。環境も場所も関係なく、誰もが自由に自分の音をかき鳴らすのを見て、ようやく、僕は僕のドラムをやればいよいよわかったんです。佐野、東京、ニューヨーク、世界中どこにいても小山太郎の演奏を。たとえば子どもやおじいちゃん、おばあちゃん相手の夏祭りのステージであっても関係ない、カッコいいジャズを聴かせたい。それで聞き手の心に向かってくるものがあれば、十分じゃないかと」。

帰国してからの3ヶ月間、佐野に滞在した。高校以来の長期滞在。

「みかも山公園を散歩して、ベンチに座つてコーヒ一飲んで。佐野はいいなあって、心から思いました。佐野東京間は高速で、時間、これからはもつと行き来が増えるでしょう。いつかアウトレットの中にでもライブハウスができればいいなあ」。

高校時代まではドラム色の生活で、佐野は目に映らなかった。東京、ニューヨーク時代は振り返ることがなかった。今ようやく、向き合える。小山氏にとつて佐野は、これから出会う街である。

最後に小山氏は言った。今は、自分のやりたい音

JAZZ CONCERT  
2004.12.11sat  
OPEN 18:00 START 18:30  
佐野市文化会館大ホール

チケット発売中 残りわずか  
[入場料] 全席自由 一般2,500円  
学生(高校生以下) 一般1,000円  
※未就学児の入場はお断りしております。  
お問い合わせは/佐野市文化会館  
TEL.0283-24-7211

小山太郎 QUARTET  
WITH TOKU  
JAZZ CONCERT

「今は昔のように思いつめていない、ドラムがなくともやっていけると思っています」彼はそう語つたが、おそらくこの人は生涯ドラムを叩き続け、技を追い続けるのではないだろうか。少年の頃と変わらぬ心さで。その技とはもちろん、心をより自由に解き放つための術に他ならない。

楽が明確にある。これからは世界のトップアーティストと共演することもある、自分のユニットを育て、自分の音楽をやることに専念したい。と。来る12月には佐野で、帰国後に新しく結成したユニットによるクリスマス・コンサートを開催する。故郷の人たちに初めて聞かせる、自分の音楽。大切な歩だ。